1からわかる 米軍「思いやり予算」

「思いやり予算」という言葉を聞いたことがあると思います。来年度は2326億円が見込まれています。防衛施設庁の談合でも登場します。この「思いやり予算」って、いったい何なのか？　予算案が審議されているいま、その全容を―。　今田　真人記者

Q なぜ「思いやり」と？

―在日米軍の「維持的経費」は、日米安保条約に基づく地位協定（1960年締結）でも基本的には米側負担とされています（24条）。日本政府は、安保条約上の義務もないのに、あえて負担しているのです。

「思いやり予算」が始まったのは78年度。それまでは、米国政府が負担していました。

米国政府はたびたび、日本側に負担を迫り続けて、その圧力に自民党政府が屈しました。当時の金丸信防衛庁長官は、一部野党幹部に対して、次のように説得したといいます。

「思いやりですよ、思いやり。日本の安全を守ってくれる在日米軍に、思いやりの気持ちを持とうじゃないですか」（金丸信著『わが体験的防衛論―思いやりの日米安保新時代』から）

義務もないのに負担しているから

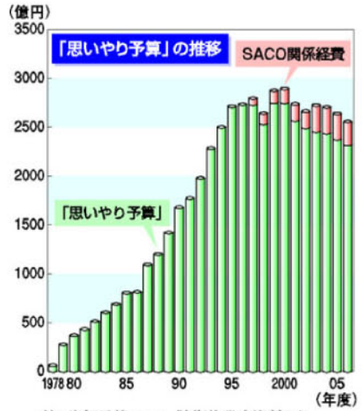
Q 何に使ってる？

―そのときどきの日米合意や、期限を定めた特別協定を結んで対象を広げてきました。

78年度当時の対象は、米軍基地に働く日本人従業員の労務費の一部だけでしたが、どんどん広がりました。79年度からは米軍基地内の住宅などの「施設建設費」、91年度からは米軍基地の光熱水料（電気・ガス・水道・燃料代）、95年度からは日本人従業員の給与全額、96年度からは米軍の訓練移転費…という具合です。

これとは別に、96年の日米合意（沖縄に関する特別行動委員会＝SACO＝の最終報告）で、沖縄の米軍基地再編の負担まで、日本側がするようになりました。これも、広い意味で「思いやり予算」といえます。06年度政府予算案で、「思いやり予算」の主な「施設建設費」の内訳（別表）をみても、その至れり尽くせりぶりがわかります。

米軍兵士の給与以外のほとんどに拡大



〈注〉当初予算ベース。防衛施設庁資料から

Q どれだけ負担？

―「思いやり予算」が始まった78年度当初は62億円でしたが、80年代から90年代半ばにかけて急増。99年度に過去最高の2756億円になり、当初の44倍に膨れ上がりました。

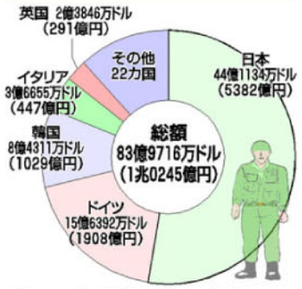
その後、2500億円前後の高い水準で推移しています。（右の棒グラフ）

米国防総省が最近公表した「共同防衛に対する同盟国の貢献」報告（04年版）によると、日本の米軍駐留経費（「思いやり予算」のほか、民有地借り上げ料、基地周辺対策費、税金の減免額などの合計）は、米国のほかの同盟国26カ国を合わせた分よりも多くなっています。（左の円グラフ）

同報告は日本について「歴史的にも、とりわけ目立って負担している」と特筆。日本政府は、米軍基地に対して〝世界一、気前がいい〟と、米国政府にお墨付きまでもらっているのです。

当初の44倍に拡大、世界一の気前よさ

米国の27の同盟国が負担する米軍駐留経費



〈注〉2002年の金額。日本円への換算は、1ドル＝122円で換算。米国防総省「共同防衛に対する同盟国の貢献」報告（04年版）から

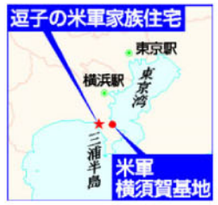
「思いやり予算」でつくられた米軍三沢基地の耐爆シェルター＝青森県三沢市

米軍住宅 最前線 「夜、兵士が家までついてきた」

「ここは米軍の敷地。日本の領土はあの線路の向こうだ」―神奈川県逗子市の米軍家族住宅の正門前で、記者は銃をもった米兵に通行と写真撮影を拒まれました。

京浜急行「神武寺駅」横の踏切北側に広がる「池子の森」。この中にあるのが「米軍家族住宅」854戸（1戸当たり平均予算1億円。3LDK＝127平方㍍。横浜防衛施設局によると、「家賃も電気・水道代もただです」。

敷地はフェンスで囲まれ、各所に「米国政府使用施設　立ち入り禁止」の看板が。逗子市の面積の14・5％を占めます。



近くの団地に住む主婦（28）は、「夜、米兵に声をかけられ、家までついてこられた」といいます。米軍住宅が「思いやり予算」で建設されたことについて「知らなかった」と絶句。

赤ちゃんを抱えた女性（35）は、「横須賀基地の米兵が殺人事件を起こしたばかり。米兵の家族が住むのがここです。心配だから夜は外を歩かないことにしています」。

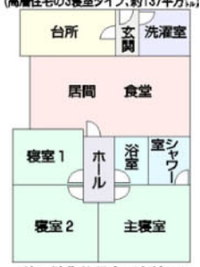
この米軍住宅が今、隣接の横浜市地区に約700戸を追加建設する計画が進行中。父親の車が米兵の車にぶつけられた逗子市の愛敬子さん（61）がいいます。

「横須賀基地に原子力空母が配備されようとしています。住宅の追加建設はそのためでしょう。『Yナンバー』をつけた米兵の自家用車による交通渋滞も市内の県道で毎日のように起こっています。私たちの税金で米軍住宅が建ち、私たちはがまんばかりというのは、おかしいです」

米兵の自家用車、「Yナンバー」の付いた自動車を指さす愛敬子さん＝神奈川県逗子市内

近隣住民びっくり 豪華マンション タダで提供

米軍家族住宅の間取り
（高層住宅の3寝室タイプ、約137平方㍍）



〈注〉防衛施設庁の資料から

池子米軍家族住宅（神奈川県逗子市＝左）と、「思いやり予算」で建設した施設を紹介し「ドモ・アリガト・ゴザイマス」というコメントまで載せていた米軍ホームページ（1999年当時）

06年度「思いやり予算」（案）金額トップ10
（施設名、整備内容、金額の順）

①岩国飛行場（滑走路移設事業含む） 汚水処理施設、配管工事など	250億2400万円
②佐世保海軍施設 家族住宅、岸壁など	60億9900万円
③三沢飛行場 家族住宅、保安柵など	55億5700万円
④横須賀海軍施設 家族住宅、油分離施設など	45億 300万円
⑤嘉手納飛行場 家族住宅、工場など	42億7200万円
⑥横田飛行場 運動施設、管理棟など	35億3800万円
⑦針尾住宅地区 家族住宅	24億5500万円
⑧横瀬貯油所 防災施設、整備施設	22億7400万円
⑨キャンプ・ハンセン 汚水処理施設、訓練施設など	17億6600万円
⑩川上弾薬庫 保安柵、保安施設など	11億6100万円

日曜ワイド

まるで占領費用

静岡大学名誉教授　安藤　実さん

「思いやり予算」の推移をみると、1990年代に大きく増加しています。湾岸戦争を受けて91年に日米で新特別協定が結ばれ、日本側負担の範囲が、駐留軍労務者の基本給や米軍の水光熱費など、さらに拡大しました。このように「思いやり予算」は、日本の安全・安心とは無関係に、米戦略で増えています。

こういう事態は敗戦当時の「終戦処理費」を思い起こさせます。これは占領軍の占領費用を負担し、日本財政を大きく圧迫しました。

駐留米軍の給料と武器以外のすべての経費を負担するわけですから、これは「占領費用の敗戦国負担」が復活しているようにみえます。

91年に「暫定的」で始まったものが、期限がきても打ち切られずに続いています。本来負担しなくてもいい「思いやり予算」はやめるべきです。

全額削除を

共産党

「思いやり予算」と沖縄基地再編費用は、ほんらい日本に支払い義務のないものなので、日本共産党は全額削除することを求めています。グアムへの米軍移転費負担の検討は、中止すべきものです。基地・施設建設の談合問題では、総点検と真相の徹底解明、防衛施設庁幹部の天下り禁止を求めています。

1兆円肩代わり

海兵隊グアム移転

いま、「官製談合」の疑いが指摘されている米軍岩国飛行場の滑走路移設工事や、横須賀基地の高層住宅新設工事なども「思いやり予算」でまかなわれています。また、昨年10月に日米政府が合意した在日米軍再編に関する「中間報告」には、沖縄の海兵隊司令部のグアム移転の日本側費用負担の検討を明記。その費用は約1兆円と見積もられています。これまでの「思いやり予算」の枠さえはみ出る、世界史にも例がないものです。